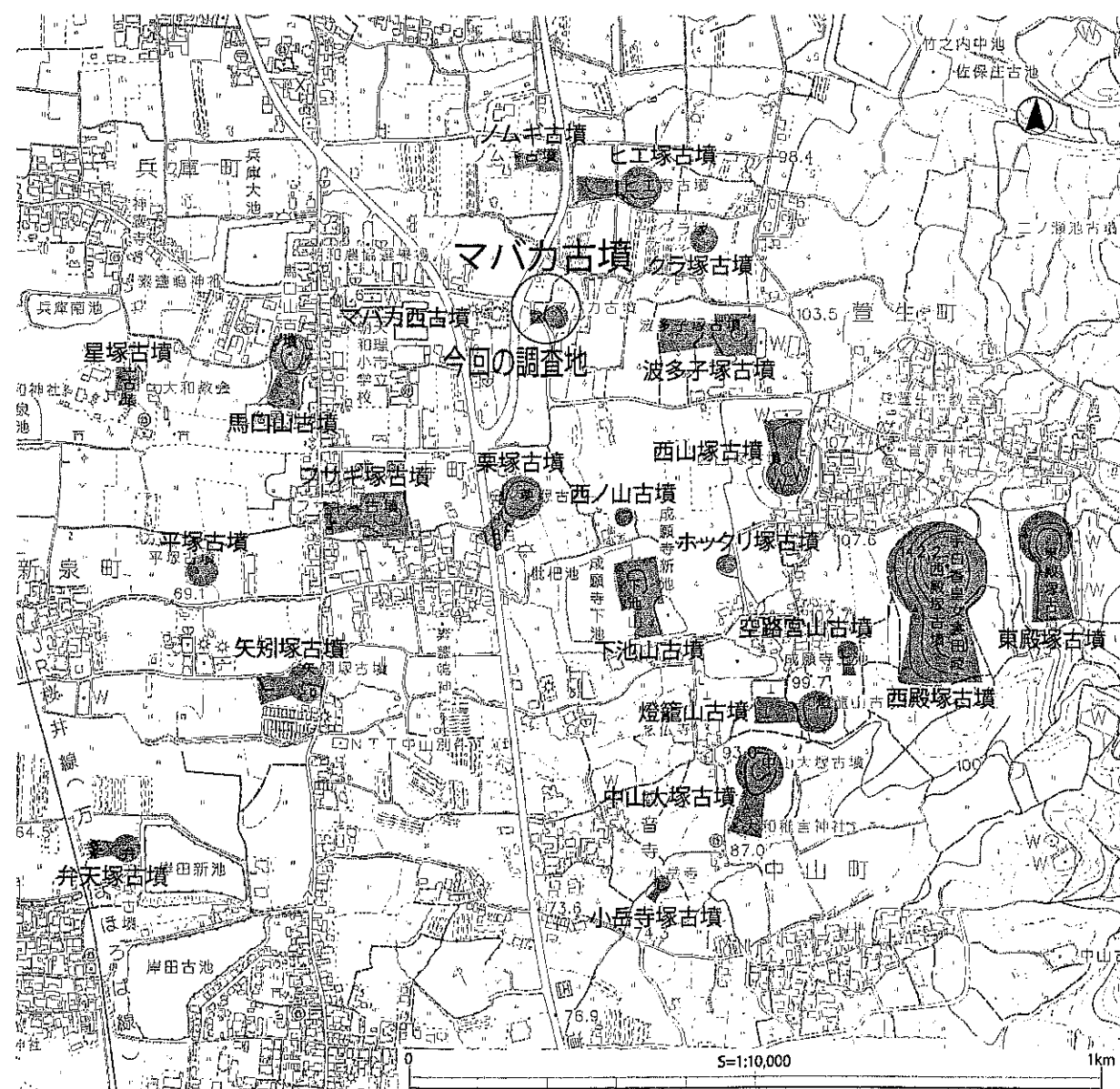


天理市萱生町・成願寺町 マバカ古墳第4次発掘調査 現地説明会資料

現地説明会日時 令和6年2月4日(日) 13:30~15:30
所在地 天理市萱生町・成願寺町
調査期間 令和6年1月15日~令和6年2月16日(予定)
調査担当 天理市教育委員会文化財課 主事 森本雅崇

1. はじめに

天理市教育委員会では、天理市南部に所在する大和古墳群の基礎調査を継続的にこない、その保護に取り組んでいます。このたび、大和古墳群のひとつであるマバカ古墳について、範囲確認のための発掘調査を実施しました。



2. マバカ古墳の概要

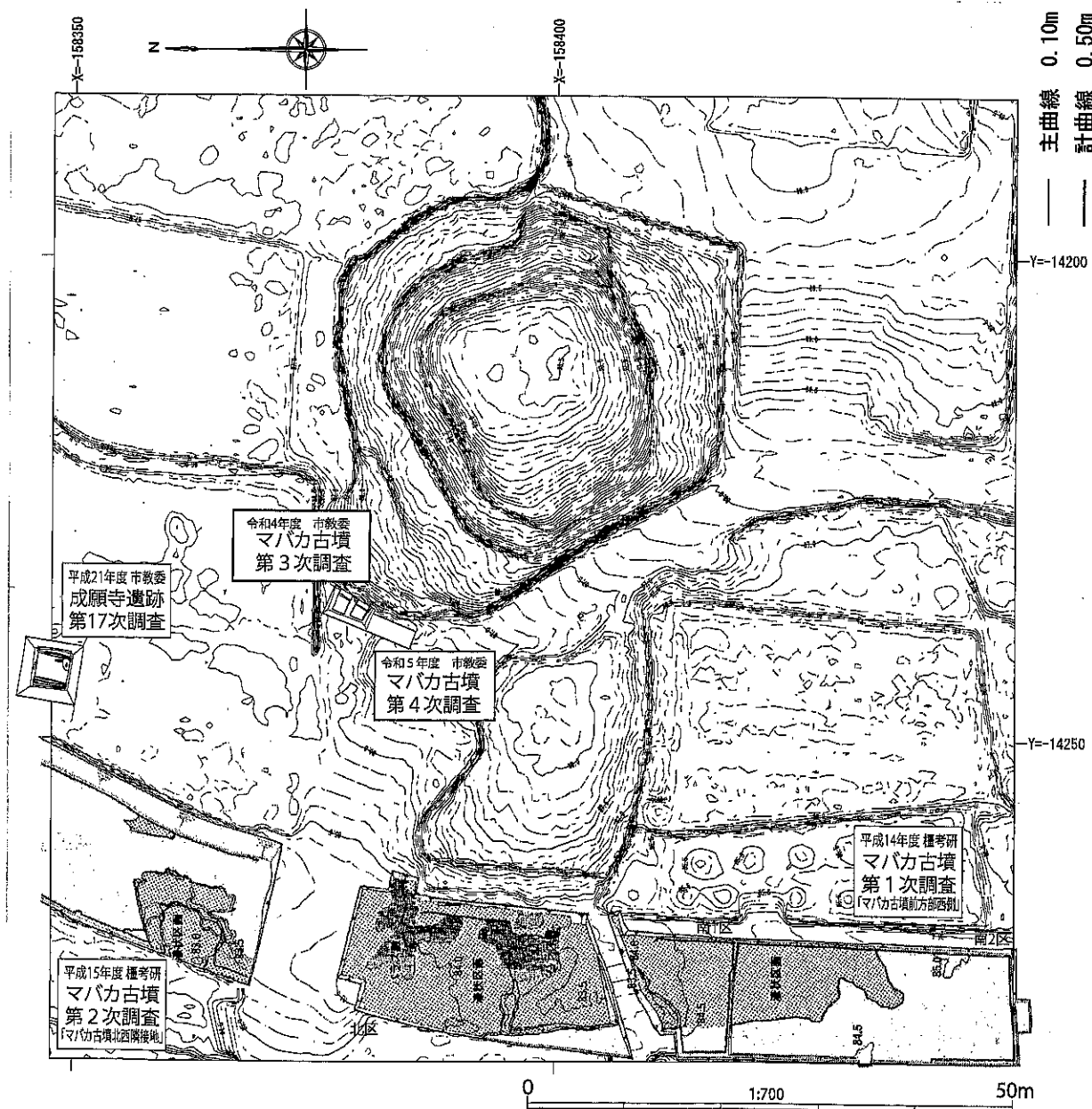
マバカ古墳は天理市萱生町と成願寺町にまたがる前方後円墳で、全長は約74mと推定されています。大和古墳群の萱生支群に属し、龍王山から延びる尾根上に前方部を西に向けて築かれており、同じ尾根上には東に波多子塚古墳、西にマバカ西古墳が築かれています。

3. これまでの調査

昭和52(1977)年度 奈良県立橿原考古学研究所(橿考研)による測量調査。全長約74mの前方後円墳と推定される。

平成14・15(2002・2003)年度 県道天理環状線の敷設に伴う発掘調査(橿考研)。前方部西側で、濠状の区画やパラス敷き、基底石(葺石の最下段に置かれる大石)の可能性のある列石などを確認。

令和3(2021)年度 航空レーザ測量により、古墳の詳細な地形を把握。墳丘が大きく改変されており、輪郭についても築造当初の形がわかる部分がほとんどないことを再確認。



4. 令和4・5年度の調査成果 (調査進行中のため見解に変更が生じる可能性があります。)

発掘調査の目的：マバカ古墳の形状・規模を知る手がかりとして、築造当初の墳丘端を確認することが目的です。令和4・5年度は、古墳の北側くびれ部に当たる敷地で発掘調査を実施しました。

令和4年度：敷地北側を発掘調査し、調査区東寄りを中心に礫の散布を確認しました。前方部西側のバラス敷きとよく似ていますが、礫の間からは古墳時代～奈良時代の土器細片が出土しました。

また、礫群の下層で、墳丘側に向かって急角度で立ち上がる地形を確認しました。このため、古墳に伴うのは礫群か、それとも立ち上がりかが課題となりましたが、結論を得るには至りませんでした。

令和5年度：4年度調査区を南に延長して、敷地南側を発掘調査しました。

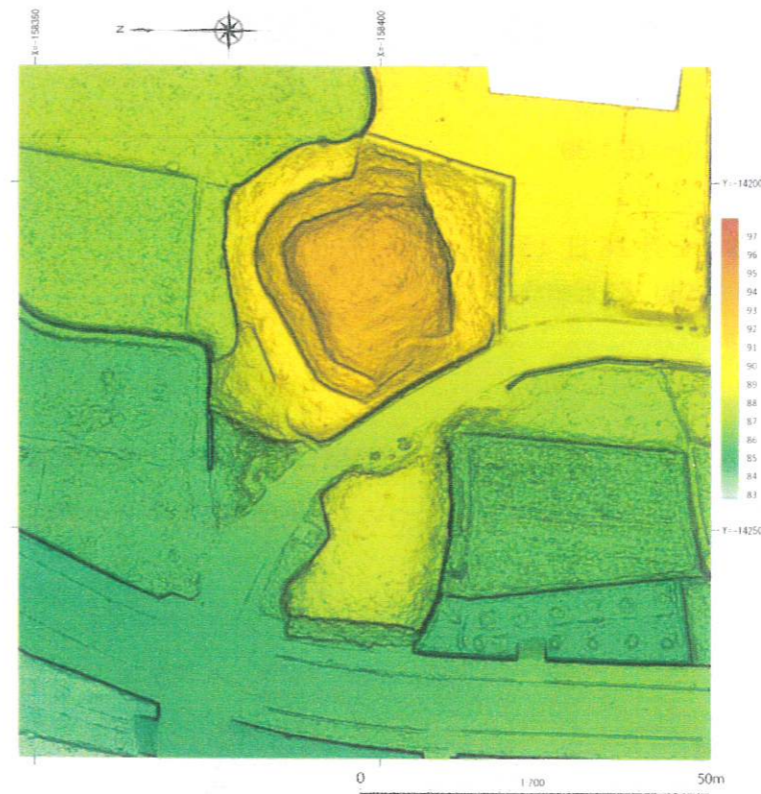
- ・4年度に確認した礫の散布は、調査区中央付近から南へは続かないことがわかりました。
- ・調査区南端で、人頭大以上の石が東西に並び、少なくとも2段積まれていることを確認しました。前方部に葺かれた葺石の基底石とみられ、マバカ古墳の形状を考えるうえで貴重な発見です。ただ、基底石の位置や方向は4年度に確認した高まりとは連続せず、先に述べた高まりや礫群との関係は依然としてはっきりしません。

5. おわりに

今回の調査では、マバカ古墳の形や大きさを解明する新たな手がかりを得ることができましたが、検討すべき課題は未だ多く残っています。天理市教育委員会では、今後も継続して古墳の基礎調査をおこなっていくことを予定しています。



■令和4年度調査区
オルソ写真(上が北)



■マバカ古墳周辺地形起伏図(左)および航空写真(右) ※いずれも左が北



■調査区南端 前方部葺石基底石